

ドラム缶工業会の平成 13 年度活動方針について

さる1月10日(水)、ドラム缶工業会の賀詞交歓会が鉄鋼会館において開催され、工業会を代表して挨拶にたった近藤理事長は、ドラム缶工業会の本年の課題・活動方針について要旨下記のように述べました。

— * — * — * —

昨年日本経済は低迷しながらも緩やかな回復過程を辿りました。秋になってアジア向け輸出の減速、米国経済の修正傾向の明確化、などの不安要因が出てきたものの、前年に引き続き2年連続のプラス成長となりました。各産業では合併・提携の動きが相次ぎ、ドラム缶の需要業界にも日本石油と三菱石油の合併、住友化学と三井化学の経営統合などの例に見るように、インパクトの大きなものがありました。



挨拶する
近藤理事長



たす役割についての理解を深めていきたいと思えます。各企業がさらにコストダウンに努め、お客様によりよい製品を安価で、安定供給する努力をするのは当然ですが、最近の状況を見ると、一部の地域では使用済みドラム缶が回収されずに放置されている例も出てきています。使用と回収のシステムが確立され、リユース、リサイクルの優等生であるドラム缶にとって見過ごせない状況となっています。ドラム缶離れを防ぐとともに、安定供給の責任を果たし、環境に優しい容器であるドラム缶の役割を守るべく、適正で正常なマーケットを構築するためには何をなすべきかについて、需要業界を含めて問いかけ、理解を求めていきたいと思えます。

第2は環境問題への対応です。現在のリユース、リサイクルの流れを守っていくこともドラム缶の環境問題への対応のベースの一つと思えます。また、昨年は更生缶業界と連携して重金属フリー塗料の使用を推進するべく色見本帳を作成しました。今年はこの重金属フリー塗料の使用を実際に進める年で、このために努力したいと思えます。

第3は国際的連携の強化です。国際的にも積極的な役割を果たしていきます。まず、4月には韓国でAOSD会議を行います。これを成功させたいと思えます。皆様のご支援をよろしく御願いたします。

また、国際的に国連危険物輸送基準、振動試験等懸案事項について議論が進んでいますが、これらの場でも日本の

このような状況の中で、昨年のドラム、ペールの業界を見ますと、ドラムは、2000年暦年で、近年では最も高い数字であった97年を上回る出荷量になりました。ペールも、6年には及ばないものの昨年水準は超えるレベルとなり、数量的にはまずまずの水準にありました。しかし、価格をみますと、特にドラムの価格については、底打ちの感じは出ているものの、今までの急激な価格低下の結果である現在の価格の水準は業界各社の経営に重大な影響を与えるレベルにまでなっております。

本年については、規制緩和を始めとする政府の積極施策により経済が早く本格的回復軌道に乗ることを期待しています。政府見通しも実質で昨年の1.0%に続いて今年は1.7%と昨年より良くなっています。しかし、ドラム業界を見ますと、原料高と輸出の低迷により年初から上期にかけてのエチレンの減産傾向がはっきりするなど楽観できない状況にあります。ドラム、ペールの現在の需要量が既に比較的高水準にあることもあり、大幅な数量の増加は期待できない状況が続くと見えています。

そこで工業会の本年の課題ですが、第1にドラム缶の果



立場を主張していきます。

第4は工業会50周年記念行事の検討です。ドラム缶工業会は2002年に50周年を迎えますが、50周年記念として位置づけられているもののうち、50年史の作成に関しては既に一部の関係者へのインタビュー等が進んでいます。今年はこれを進めるほか、50周年記念行事のあり方についても検討を始めたいと思います。

以上抱負と所感の一端を述べさせていただきましたが、本年も厳しい状況が続くことは間違いありません。業界各社の自助努力でこの状況を乗り切りたいと考えてい

ますが、需要業界、関係官庁、諸団体のみなさまにおかれましても暖かいご支援を賜りますようお願いいたします。

—*—*—*—

本年の賀詞交歓会には、正会員、賛助会員のほか、役員OB、関係官庁、関係諸団体の方々を含む150名以上が参集する盛況となりました。そして理事長の挨拶に続き、経済産業省製造産業局 半田鉄鋼課長、日本ドラム缶更生工業会本野会長のお二人からご挨拶をいただき、その後懇親会に移って、和気あいあいの内に歓談、意見交換が行われました。

ドラム缶工業会の ホームページが 情報満載でオープン

<http://www.jsda.gr.jp>

ドラム缶工業会のホームページがこのほど完成しました。ドラム缶の基礎知識、用途、環境問題、生産高、ドラム缶のユニークな活用法などの情報が一般の人にも役立つように、分かりやすく記述されています。百聞は一見にしかず、どうぞアクセスしてみてください。



＜ドラム缶工業会のトップページ＞



Dr. ドラムの “缶々学々” 講座

本シリーズの5回目は、ドラム缶の“美容学”と題して、外装塗料の色にスポットを当てました。

第5回：美容学の巻 14の表情を持つドラム缶

——ドラム缶が随分カラフルになっていますが、一体何色ぐらいあるのでしょうか？

Dr.ドラム この不勉強者め！君は前号の「ひびき」を読んでおらんようじゃな。全部で14色じゃ。ドラム缶工業会に加盟しているメーカーで標準色として、ホワイト、ブラック、ライトグレー、グレー、パーシモン、ワインレッド、

ライトブラウン、ブラウン、クリーム、エコイエロー、ライトグリーン、グリーン、ライトブルー、ブルーと決めておる。つまり、白、黒のほか、灰系・赤系・茶系・黄系・緑系・青系で濃淡2色となっておる。これだけあればドラム缶の利用者も弁別するのに十分というわけじゃ。

——なるほど。一口にドラム缶といっても14の表情豊かな顔を持っているというわけですね。

Dr.ドラム そのとおりじゃ。その14色も従来は塗料の効果的な顔料として重金属が使用されておったのじゃが、環境問題を考慮して時代を先取りした形で“完全重金属フリー”の新標準色に昨年切り替えられておる。日本ドラム缶更生工業会も新標準色の採用を決めておるので、日本で生産される鋼製ドラム缶はすべて環境にやさしいものになっておるのじゃ。

——よく「綺麗なバラには棘がある」と言いますが、ドラム缶は目にも鮮やかな上に地球環境にも配慮したリサイクルの優等生というわけですね。

Dr.ドラム たまにはいいことを言いよる。それだけ分かるとるなら、情報を先取りするくらいに勉強することじゃ。

——おそれいりました。

DATA
FILE

平成12年(暦年) 出荷実績まとまる

平成12年(暦年) ドラム缶・缶種別・用途別出荷本数

(単位:千本)

用途 缶種	石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	前年比	
200ℓ缶	2,071 (102.8)	9,593 (106.0)	632 (103.4)	214 (138.1)	361 (101.4)	12,871	105.6%	
ペール	12,532 (100.3)	10,967 (102.0)	776 (103.3)		786 (110.4)	25,061	101.4	
100ℓ缶	16	186	9		4	215	98.3	
50ℓ缶	28	317			41	386	118.2	
アス缶型	8	5				13	80.1	
その他容量缶	3	496	1	微	23	523	95.9	
200ℓ缶	亜鉛鉄板缶	微	88	1	1	10	100	90.3
	ステンレス缶		30				30	146.8
	小計		118	1	1	10	130	99.1
中小型缶	亜鉛鉄板缶		214			1	215	103.2
	ステンレス缶		10			微	10	116.3
	小計		224			1	225	103.7
合計	14,658	21,906	1,419	215	1,226	39,424	102.8	
前年同期比	100.9	103.5	103.7	137.8	108.8	102.8	—	
構成比	19.3	71.7	4.6	1.4	3.0	100.0	—	

(注) 1. 200ℓ缶、ペール缶の下段()は、前年比。

2. 構成比は、ドラム缶の出荷トン数の構成比。

—200L缶で
前年比5.6%増—

平成12年暦年の出荷本数は681千本増の前年比105.6%となりました。この要因は主として全体の74.5%を占める化学関係の需要が前年比6.0%伸びたことによります。

一方ペール缶は、350千本増の前年比101.4%となりました。これは全体の50.0%を占める石油関係は前年比0.3%の微増に留まりましたが、43.8%を占める化学関係の需要が2.0%伸びたことによります。

先輩からの今年の年賀状の中に、「さかさ言葉」回文の勧め、新年詩として「巳の年と祝い、幸い年と飲み、みのとしいわい、さいわいとしとのみ」という傑作がありました。まさしく自分自身の生活そのものと喝采し、正月早々一人で乾杯した次第です。

学生時代の運動部のコンパに始まり今日までの会社生活を通じ、酒を飲む習性がずっと続いている結果、その時々新たな知己を得、多くの素晴らしい出会いに恵まれてきたと思っております。人生経験豊富な先輩、何でも言ってくれる友人、若い人々のフレッシュな感性、そういう人々の言葉

に啓発され、自分自身も成長してきた気が致します。

理屈はともかく、数多くある酒の中でも、翌日のことが気にならなければ日本酒が大好きです。「お酒はぬるめの燗がいい〜」は演歌「舟唄」の歌詞ですが、寒い冬には熱燗で飲み交わす酒は最高です。熱燗は50度近辺だそうです。冷酒のみならず燗をして飲む工夫をした日本人に乾杯です。

燗酒が普及したのは、江戸時代の前、中期、飲酒が大衆化してからだそうです。その理由は人々が温かい酒のうまみを好むようになったというよりも、居酒屋の商魂がきっかけのようです。酒の管理技術が今ほど発達していなかった当時は、冬場に

造った酒が夏になると臭みに近い香りを出すようになり、その香りを燗をしてとばして、悪く言えば「ごまかして」客に提供したのがルーツのようですが、冬の冷気に燗酒で暖まる一時はまさに至福の時であります。難点は飲み過ぎることです。江戸初期の儒学者、貝原益軒曰く、「酒は天の美禄なり、少し飲めば陽気を助け、血気を和らげ、食気をめぐらし、愁いを去り、興を発してはなはだ人に益あり。多く飲めば、またよく人を害すること酒に過ぎたるものはなし」(養生訓)

酒なら1~2合、ビールなら大ビン1~2本、ウイスキーならダブル2杯が適量のようなのですが、おしまいにサラリーマン川柳より「百葉の長の目盛りのむつかしさ」

(川野 理 記)

トップの素顔

「自分に不利益でも、正直」に



株式会社山本工作所
取締役社長 山本 雄造さん

昭和21年にお父様が創業された(株)山本工作所。その後約20年にわたって同社の基盤を築いた「肝っ玉母さん」(お母さま)から、昭和51年にバトンを受け継いだ山本社長。今

昭和40年4月に日商(株)に入社以来営業一筋、それも商社にあっては珍しくずっと大阪という林田社長。平成10年6月に現在の(株)ユニコンの社長に就任。仕事以外でも、あれやこれやと、多くの知人(かつてのお客様達)とも今でもお互いにアドバイスしあっている。

——ご出身は久留米市ですね。

☆そうです、久留米市といえば今では平野の中心都市でのんびりしていますが、昔はゴム工場地帯で、軍隊の基地もあり、大部分空襲で焼けてしまいました。私も4才の時空襲にあい、兄達に手を引かれ川の方へ逃げて行き、町が焼けるのを見ていました。これが私の一番小さい時の記憶です。

——学生時代の思い出という？

☆同じ高校から大学へ一緒に入った仲間達とラグビー部に入部したのです。その頃ラグビー部は人数も少なく、すぐにレギュラーになれたのですが、部室の壁の落書きに「打倒福岡高校」と書かれていました。本当に1、2年の時は負けたと思います。しかし4年の夏には、その時の社会人の覇者八幡製鉄に「練習台として合宿に来ないか」と誘われました(八幡の部長が我々の先輩でしたので)。その時の八幡には全日本のメンバーの宮井、草津、北島等の選手達がお

回はさまざまなエピソードのあったアメリカ留学時代を中心にお話をうかがった。

——お生まれは東京ですね。

☆はい、でも2年で北九州の母の姉の家へ疎開しました。

——小さい頃の思い出というと、やはり戦争のイメージが強いですか。

☆ほとんどありませんね。物心ついてからは川や山で遊んだ、楽しい思い出の方が多いですよ。

——中学3年からはまた東京ですね。

☆姉2人が東京にいたこともありますが、当時母も社業が忙しく、第一人の面倒を見るので精一杯。だから「お前は東京へ行け」ということではないかな(笑)。

——その後、高校・大学を経て21才の時にアメリカへ留学されたのですか。

☆はい。最初は言葉と生活に慣れるために公立高校に入りました。そして半年後カレッジへ。データプロセスを専攻しました。

——カレッジの休暇中にはアメリカ大陸横断も体験されたとか。

☆30日かけて車で1万6000kmを走りました。西海岸からルート66でニューヨーク

り、練習試合でも大変迫力がありました。そのお陰で4年の最後のシーズンには全国大会に出場でき、準決勝まで進みました。

——すごいですね。

☆でも後にも先にも母校の全国大会出場はそれ1回です(笑)。

——仕事は商社での営業が中心でしたね。

☆はい。一番思い出に残っているのは、30才の時に伸線メーカーに出向して仕事をした時のことです。大変責任の重い仕事でしたが、やりがいもありました。今その会社が月間1万トンの実績を挙げる会社になったこともまたうれしいことです。

——その時のことが今も役立っているとか。

☆ええ、当時経験し、苦労したことが、今の会社をやっていく上で大いに役立っていると思います。

——入社2年目で結婚された奥様とは常に一緒に仲がよく、単身赴任は一度もないそうですね。

☆私自身、家事が何もできず、それらをしてもらうために結婚したようなものですから、一人では暮らせないんですよ(笑)。

——でも、今も毎週のようにお二人で水中ウォークに通われているでしょう。

☆家内の楽しみが旅行ですので、いつかは2人

へ。そしてナイアガラ・ソルトレイクシティと回ってきました。コロラド山脈で野宿している時ラジオから坂本九の「スキヤキ」が聞こえてきて懐かしく思ったものです。

——堀江青年が単独大洋横断に成功した(昭和37年8月)のもその頃でしたね。

☆ええ、私がアメリカ横断から帰ってきた時、彼もちょうどサンフランシスコに入港したのです。その他にも私がアメリカにいた頃は、キューバ危機やケネディ大統領暗殺など、アメリカ自体は大変な時期でした。

——キューバ危機は最近、映画「13デイズ」でもテーマとなっていましたね。休日には映画なども見られますか。

☆妻と散歩することが多いですね。河内貯水地(周辺に約6kmの遊歩道がある)など近くに適当な散歩コースが多いのです。健康・趣味・気分転換を兼ねています。

——では最後にモットーをお願いします。

☆会社でもよく言っているのですが、「人騙すな、コズルイ嘘をつくな」ということです。多少自分に不利益でも正直に。そうありたいですね。

「まじめに、誠実に」



株式会社ユニコン
代表取締役社長 林田 雅博さん

で海外旅行でも思っているの、まあ、そのための健康づくりですよ。

——では、最後にモットーをお願いします。

☆まじめに、誠実にということです。それが今、私の財産である「人との繋がり」の基になっていると思います。

会員

秋田ドラム工業(株) 川鉄コンテナ(株) 協和容器(株)
鋼管ドラム(株) 斎藤ドラム缶工業(株) 山陽ドラム缶工業(株)
新邦工業(株) ダイカン(株) 大同鉄器(株) (株)東京ドラム罐製作所
東邦シートフレーム(株) (株)長尾製缶所 日鐵ドラム(株)
(株)前田製作所 森島金属工業(株) (株)山本工作所 (株)ユニコン
《賛助会員》

エノモト工業(株) 三恵マツオ(株) 丹南工業(株) (株)大和鐵工所
三喜プレス工業(株) (株)城内製作所 東邦工板(株) (株)水上工作所

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10
(鉄鋼会館3階)
TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969
e-mail : drum.pail@jsda.gr.jp

ひびき No.30 (平成13年2月26日発行)

発行人 ドラム缶工業会
事務局長 藤野 泰弘

本誌は再生紙を使用しています。